

# 出版社向け原価管理システム

制作書籍の登録、台割構成の入力、用紙・印刷・製本の発注から始め、最終的な原価を集計、計算します。特に編集者向けに作成されており、細かい本の制作に関わる計算を制度化、効率化できます。Windows系のパソコンとレーザープリンタをご用意いただくだけで利用可能です。ネットワークにも対応しており、最大20名まで同時に利用することが可能です。カスタマイズも容易に行うことができます。アフターフォローも万全で、安心してお使いいただけます。

## 制作マスタ登録



制作書籍の登録を行います。この後行う「発注入力」に必要な情報を書籍別に入力しておき、1書籍の分割した構成要素は次の「台割登録」で行います。

## 台割登録



制作マスタへの登録後、この書籍の構成要素を分割し、1構成つつ登録していきます。表紙、本文などの1部品をカラー部、白黒部など複数に分けて入力することが可能です。

## 発注入力



台割登録にて入力された構成ごとに、それぞれの発注内容を費用別に入力します。一定の計算式がプログラムされており、発注単価の入力をするだけで発注データを作成できます。計算式を使わずに手入力・修正することも可能です。

## 用紙発注書



発注入力にて入力された用紙部分のデータを、発注先ごとに集計し用紙発注書として印刷します。

## 印刷発注書



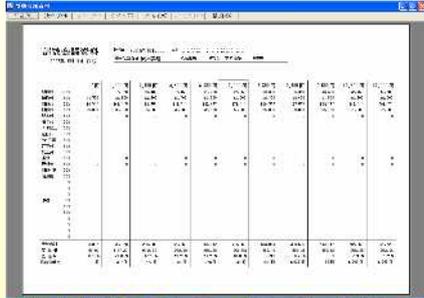
発注入力にて入力された印刷部分のデータを、発注先ごとに集計し印刷発注書として印刷します。使用する用紙の情報もともに記載されます。

## 稟議書



制作物の発注前に、社内での検討材料として稟議書を発行することができます。おおよその予算費用を科目別に確認することができ、シミュレーションとして損益分岐点を把握することができます。

## 部数会議資料



制作物の発注前に、社内での検討材料として部数会議資料を発行することができます。制作部数の予定数を1000部単位で上下にスライドさせ、それぞれの費用を一定の率でシミュレーションします。

## 発注消込



発注先より請求書が届いた後、それぞれの発注内容を消込みしていきます。予定通りの請求金額でなかった場合は金額を手修正することが可能です。

## 原価計算書



稟議時点での予算金額と、実際の請求書の金額とを対比し予算管理を行うための資料です。予算オーバーした分の金額をバーセテージで記載することにより達成率をわかりやすく確認することができます。